

### 災害に立ち向かう知恵と努力

災害が起こる度に、人々はできるだけ災害が起こらないように、被害が大きくなるように、知恵を出し、努力して災害に立ち向かってきました。今回は、徳島県阿南市の水害と愛媛県東温市の湧水に立ち向かった人々の話をお伝えします。

#### ■万代堤と古毛の大岩（徳島県阿南市羽ノ浦町古毛）

万代堤（ばんだいつつみ）は那賀川左岸にある長さ約1,075m、高さ約6mの堤防です。天明7年（1787）の洪水により堤防が破損したため、古毛（こもう）村の庄屋・吉田宅兵衛が中心となって下流の14か村共同で、翌天明8年に修築を行いました。しかし、文化元年（1804）の洪水により堤防は再び約900mにわたって破損したため、翌文化2年に修築され、藩命により「万代堤」と命名されました。その後も堤防は洪水により度々壊れましたが、その度に吉田家など村人が修築を行うとともに、弘化元年（1844）には牛柵をつくり、慶応2年（1866）には硯石（のぞきいし）山から長さ約9m、高さ約7mの大岩を落とし込むなどして、堤防を守ってきました。近くに万代堤の碑が建立されています。〈参考資料：羽ノ浦町誌編さん委員会編「羽ノ浦町誌歴史編第一巻」1998年など〉



#### ■三ヶ村掘貫水門（愛媛県東温市田窪）

昔の牛湊村、南野田村、北野田村辺り（現在の東温市）は灌漑水が不足して日焼けのため、村民の生活は困窮を極めていました。事態を改善するためには、水源を確保する必要がありましたが、重信川の表流水は既に取水されており、堤防沿いには泉が設けられていたので、新たに取水する地点はありませんでした。そこで、北野田村の庄屋・橘並右衛門は、長年にわたり重信川の河床を調べ、河床に暗渠を構え、伏流水を取水する計画を立てました。重信川の川底に溝を掘り、その上に石でふたをしてトンネル構造とし、溝に溜まった水を三ヶ村に引き入れるというものでした。三ヶ村の人々にも働きかけて代官所の許可を得て工事を進め、10年の歳月をかけて天保10年（1839）に三ヶ村掘貫水門が完成しました。〈参考資料：重信町誌編纂委員会編「重信町誌」1975年など〉

